



米沢市内をバックに左から2人目が筆者の湊、4人目が藤井先生

私たち藤井敏信ゼミは「まちづくり」について勉強しています。一口にまちづくりと言っても、行政主導型から住民参加型まで、また住環境づくりから福祉施策まで、さまざまなタイプがあります。ゼミでは、その多種多様な形態について「現場主義」で取り組んでいます。

まちづくりを五感で学ぶー城下町米沢

国際地域学部国際地域学科4年

湊 康之

田園の学舎まなびや

東洋大板倉キャンパス

発

～第3部 XIV

内を歩き回っているのです。このまち歩きは楽しいものでした。これまで意識することのなかった海外のまちづくりについて学んだ後、もう一度日本を歩いてみると、視野が広がったことがわかります。

夏休み(2006年8月27-31日)には、山形県米沢市を中心に現地調査を行いました。藤井教授、大学院生1人、学部3年生7人の合計9人が参加しました。米沢市は置賜盆地の中心都市で江戸時代に上杉家の城下町として栄えました。上杉鷹山公による藩政改革や米沢織、そして米沢牛で有名です。

2日目の午前中は、米沢の歴史を学ぶスケジュールを組みました。上杉家廟所、東光の酒蔵(酒造資料館)、米沢織物記念館、上杉神社、そして弘法大師の高弟である徳一上人が開いたとされる笹野観音など、ここには数多くの観光名所が点在しています。米沢を歩いて感じるのは、江戸中期に殖産興業や藩校設置を図り、質素倹約を実践した上杉鷹山公の影響の大きさです。まちづくりを考えるうえで、歴史の重要性や連続性を再認識しました。

午後には米沢市役所を訪れました。都市計画や廃棄物処理等の担当者に道路整備、地場産業や観光事業の展開、ごみの分別収集についてインタビューしました。その後、市長さん

歴史の重要性 再確認 中心街の苦しさも実感

3日目は、米沢市のお隣の長井市のごみ処理について調査しました。長井市は、市民が参加して生ごみのコンポスト化に早くから取り組んでいる先進自治体として知られています(コンポストとは、ごみを発酵させてつくる堆肥のことです)。

最後に一言。みなさんも是非一度は米沢を訪れてみてください。米沢で食べる米沢牛は最高に美味です!!

(終わり)

がわざわざ懇談の時間を設けてくださいました。実は藤井先生の知り合いのことで、私たちにってはうれいハプニングでした。さらに、この日は「夜の部」もあり、役所や地元の青年部の方々と食事を交えながら、米沢についてだけでなく、学生生活についても語り合い、大いに盛り上がりました。

3日目は、米沢市のお隣の長井市のごみ処理について調査しました。長井市は、市民が参加して生ごみのコンポスト化に早くから取り組んでいる先進自治体として知られています(コンポストとは、ごみを発酵させてつくる堆肥のことです)。

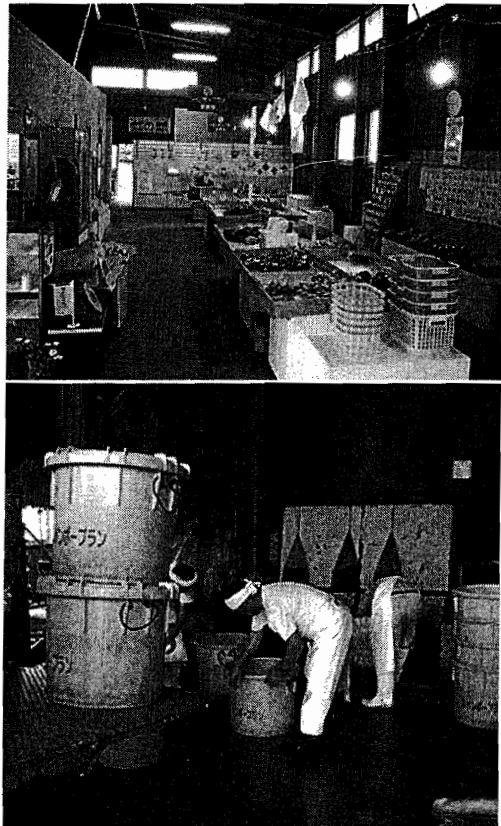
最後に一言。みなさんも是非一度は米沢を訪れてみてください。米沢で食べる米沢牛は最高に美味です!!

を置き、休日を利用して横浜、浅草・京島、練馬・光が丘、新宿・原宿を歩きました。現地を訪れるに際しては、あらかじめ文献を読み、映像記録を見て予習します。そのうえでまちを歩くと、文献だけではうかがうことのできなかつた部分も見えてきます。

2時間足らずで到着します。初日は早速福島県との県境にある天元台に登りました。市の中心部から20分近く離れた場所なので、細部までははっきりと見えませんが、米沢市を一望することができます。

がわざわざ懇談の時間を設けてくださいました。実は藤井先生の知り合いのことで、私たちにってはうれいハプニングでした。さらに、この日は「夜の部」もあり、役所や地元の青年部の方々と食事を交えながら、米沢についてだけでなく、学生生活についても語り合い、大いに盛り上がりました。

の処理場を見学しました。生ゴミを処理する第1段階の処理場は、鼻がつぶれるくらい臭い臭い本音が聞こえてきます。しかし、コンポスト化されるとそれがあんな生ゴミ?と驚くほど、きれいな堆肥になるのです。



コンポストから作られた野菜の直販所(上)と、コンポストの第1段階の処理場